

意思表示の手助けに

コンテスト優秀賞の福祉機器

有明 高専 柳河特別支援学校へ贈る

大牟田市東萩尾町の有明工業高等専門学校(立居場光生校長)は十五日、第十一回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテストで優秀賞を受賞した意思表示の手助けをする福祉機器を柳川市三橋町の県立柳河特別支援学校(小柳和孝校長)へ寄贈した。



福祉機器の説明をする学生

機器は石川洋平電子情報工学科准教授の研究室の学生が同支援学校のニーズを基に、重度の肢体不自由と言語障害を併せ持つ人が簡単な意思表示をスムーズにできるような昨年六月から製作。

「いいえ」など分割された場所の電球が順番に光り、ボタンを押し止めることで意思を伝えられる仕組み。最大で六分割まで可能。

フルカラーLED採用、同じ電球で3色、軽量化もフルカラーLEDを採用し、同じ電球で三色を出すことができるほか、持ち運びができるよう充電

式のバッテリーを使用し、鉄板を加工するなど軽量化にもこだわっている。

この日は石川准教授と同科五年の井上陽平さん(20)、古賀直樹さん(21)が訪問。小柳校長が受賞を祝福し「当校だけでなく、多くの福祉関係に役立つと思います」とあいさつ。

この後、井上さん、古賀さんが機器の説明をし贈呈。同支援学校高等部一年の徳永将哉君(16)が「大切に使用させていただきます」とお礼を述べた。

有明高専は昨年三月にも出た目を音声で教えるサイコロや三角の穴が開いた板に同じ形の棒を入れる対戦式のペグ棒盤を寄贈している。

(奥井 聡志)